

日 時:令和3年6月18日(金)13:55~15:45

場 所:財務省4階 国際会議室

出席者:川口座長、池本編集長、伊藤教授、鶴養理事、佐々木部長、村木教授、山下部長

議事要旨:

開会挨拶の後、事務局、乾汽船及び人事院より、配布資料に沿って説明があったあと、意見交換を行った。主な内容は以下の通り。

### 【民間社宅(月島荘・日吉寮)の取組について】

#### ○月島荘について

- ✓ 月島荘(シェア型企业寮)は空間や設備を入居者でシェアすることで、コミュニケーションをとる場を提供し、企業間の垣根を超えた交流促進を目指している。
- ✓ 必要最小限の専有部と広めの共用部がコンセプト。昔と異なり、水回り(トイレ、シャワーブース、洗面)は専有部に設置。
- ✓ 1階に全員が使える広めの共用部、30~40人単位のクラスターを構成して各階にもクラスター単位で使用する共用部を設置。それぞれにキッチン&リビングを設けて、居住者間の交流促進をはかっている。
- ✓ 地域とコミュニケーションをとるイベント(近くの学生との意見交換、食堂の地域開放)などを実施し、コミュニティの形成を地域にも広げている。
- ✓ ハード面だけでなく、ソフト面の運営が重要。入居者だけでなく企業の人事サイドも協力して、交流のきっかけとなる仕組み作り、例えば、挨拶を取り入れ、粘り強く植え付けていくなどして、コミュニケーションを実現していく。
- ✓ 共用部におけるイベント運営は放置すると劣化していく。例えば、防災を意識しながらコミュニティを高めていく防災コミュニティなどの取組を実施。
- ✓ 月島荘のメリットを活かしているかどうかは、各企業のスタンスによって異なってくる面がある。
- ✓ 当初稼働率が低かったが、企業の人事部の口コミにより評判が高まり、最近では100%に近い稼働率に至っている。

#### ○日吉寮について

- ✓ コンセプトは年代や部署を超えたコミュニケーションの深化を図るということ。コミュニケーションスペースとなる多様な共用設備を設けて、人的ネットワークと組織力の構築を目指している。
- ✓ 建築の趣旨は、「若手社員の教育の場」、「縦、横、斜めの人的ネットワーク構築」、「健康」、「地域社会との共生」及び「BCP 機能」。
- ✓ 人的ネットワークの構築に当たっては、オープンスペースを活用している。例えば、食によ

る交流として、キッチンを使った料理教室、鍋などが交流の場となっている。

- ✓ 地域との共生にあたっては、自治会との協力などもやっており、地元のお祭りに参加して屋台の運営などにも協力している。

#### 【若手職員の公務員宿舎事情等について】

- ✓ 都心の民間賃貸住宅の家賃は高止まりして下がっておらず、既存の公務員宿舎の改修や建替えによる方法が現実的である。
- ✓ 共用部における交流スペースは公務員宿舎にも必要。ハードだけではうまくいかないのも、豪華なことはできないが、運用面での仕組みが必要であり、それを維持していくためのソフト面の仕組みや定期的なメンテナンスをやっていくことが必要である。
- ✓ 4人に1人位は職場の職員と居住場所まで一緒に嫌と考えている一方、公務員宿舎に入りたくない理由の多くは「古い」、「遠い」であった。条件が改善すれば公務員宿舎に入りたくないという職員が相当程度いるため、その点を踏まえて議論していく必要がある。
- ✓ 昔と若い世代の乖離は大きい。若者を批判する人達のスタンスで作ると、若い人達が入りたくないものになってしまい、結局無駄なアセットを作ることになってしまう。
- ✓ 若手職員が民間賃貸住宅を借りた場合、住居手当(最高額28,000円)が支給されるものの、自分の給料の中でかなりの部分を家賃に充てているということがうかがわれる。
- ✓ 民間企業においては、企業規模にもよるが、転勤がある企業はかなりの割合で社宅を有しているのに対して、転勤がない企業は社宅がないところが多い状況となっている。
- ✓ 公務員の若手職員の総合職は2年毎に霞が関と地方間を転勤すると聞いている。民間賃貸住宅を借りた場合の敷金・礼金は若手職員には負担であり、そういう観点からも若手職員の公務員宿舎整備は大事である。
- ✓ 民間賃貸住宅はこの20年位で古いものは建て替えられるなど更新が進んできた。40年以上経つと設備仕様や間取りが合わなくなり、取壊しか建替えとなるのが一般的。世の中にあわせた建替えの基準みたいなものが必要ではないか。
- ✓ 公務員は国民全体の奉仕者であって、公務員宿舎の環境によりそれを遂行できなくなるのは問題。古い汚い遠い公務員宿舎に入りたくないというのはわかるし、さらには職員の英気が養われなければ辞職に至ってしまう危険もある。
- ✓ 日本では若者に集団生活の経験が少ない。社会的な教育・研修は企業の役目となっており、公務員宿舎に研修機能があってもいい。
- ✓ 公務員宿舎は何のために必要なのか。人材育成の「研修」の場と、明日の英気を養う「住まい」は分けて考えるべき。
- ✓ 公務員は過酷な勤務条件にあり、寒いお風呂やお湯が出ない洗面台など、休息が取れない、英気を養えないような環境は早急に改善すべき。安心して健康に暮らせる住宅を用意するのは大家の義務、従業員の健康保持は企業の経営者の義務である。

- ✓ 過酷な勤務条件は国会対応など行政の中だけで解決できない課題もあり、せめて庁舎・公務員宿舎の問題を改善につなげていく検討が必要。